

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 3月 19日(金曜日)	開催時刻	13時 30分から 16時 30分
会議名	丸子地域協議会(平成 21年度第 13回)		
出席委員	浅倉委員、生田委員、大森委員、木下委員、倉沢委員、甲田委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(浩)委員、武井委員、土屋委員、成澤(啓)委員、本間委員、宮坂委員、村松委員、柳原委員 【欠席】片桐委員、滝沢(俊)委員、成澤(み)委員、竹花委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当主査		

上田市わがまち魅力アップ応援事業・平成 21年度事業実績報告会

各団体からの報告

- ・ 辰ノ口バイパス道路景観整備（辰ノ口自治会協議会）
- ・ 史跡散策ウォーキングコースの開発（長瀬自治会連合会・丸子史料研究会）
- ・ ふるさと農道景観整備（荻窪自治会ふるさと農道桜の会）
- ・ 地域が育てる西内っこ育成支援活動でつなく、福祉・温泉の里山、西内地区（西内自治会・平井自治会）
- ・ ふるさと景観づくりと健康の里（和子自治会）資料 5ページ「内村川左岸～」を「内村川右岸」に訂正。
- ・ 平井地区穴沢 枝垂栗・枝垂榎保存（平井自治会）
- ・ 下和子地域の景観整備と生活環境の継承（SLOWLIFE クラブ下和子素浪人の会）
- ・ 霊泉寺温泉未来プロジェクト（霊泉寺温泉の活性化を考える会）
- ・ 木曾義仲ゆかり史跡整備（木曾義仲信州丸子会）
- ・ 箱山城・桜ロード整備（箱山城・桜ロードの会）
- ・ お産と子育てにやさしい街「うえだ」（お産を考える会 はぐ HUG）
- ・ かかし祭りの企画・運営（丸子地域を活性化する会）
- ・ 郷蔵や古文書群をはじめとする歴史遺産を生かしたふれあいの里（上田飯沼史学会）
- ・ 丸子バラを育てる事業（丸子バラの会）
- ・ 一本木公園整備（一本木公園をつくる会）資料 15ページ「桜の木～」を「桜の花」に訂正。
- ・ ほたる飛び自然豊かな里山造り（中丸子ほたるの里の会）
- ・ かあちゃん達が伝えるおらが村（内村）の幸せ（内村っ娘の会）
- ・ 独鈷山千本櫻地域おこし事業（独鈷山千本櫻の会）

ディスカッション（団体同士の意見交換、協議会委員からの意見等）

（木曾義仲信州丸子会）素晴らしい 18の事業で、それぞれ一生懸命やっているが横の連絡

がないので、情報交換したらどうか。いろんなイベントの話を聞くと、ぜひ参加したいと思う。桜は長いスタンスで考えないといけない。少なくとも 10年しないと桜の花は咲かないので、長い期間でお金を少しずつかけながらのほうが良い。一般の人にはなかなか情報が行き渡らない。広報や報道関係を大いに使って、みんなに知らせることが大切。なにをやるにも、やっている人は一生懸命だが一般の人は無関心なことが残念。これからは、それぞれの地域の自治会長を含めて、なにかイベントがあったときは参加したり見ていただきたい。

丸子地域には丸子修学館がある。応用生物科が、7年がかりで研究をして義仲桜の苗木が育ってきた。枝垂れ栗についても勉強のためにとお願いしたらどうか。

「義仲」NHK 大河ドラマで丸子地域が脚光をあびることを望んでいる。

(事務局) 広報うえだ、自治センターだよりも事業を紹介している。平成 20年度の実績を取りまとめてデータ化してある。CDを持参いただければデータをお渡しできる。

(内村っ娘の会) 観光協会とか、今年度はディスティネーションキャンペーンの一部として協力できる体制を作っている。いろんな面で活動をしている皆さんと、ゆるやかな連携がとても大切になる。ぜひ積極的に参加し地域間の交流が深められればと思う。このところ賛助会員を募集し 20名ほど増えた。先ほどから聞いていて、すごく良い観光資源ができたと言っている。各地域のウォーキングコース、桜の見ごろとかを、丸子地域自治センターで一つのマップみたいな形で情報をいただければ、そこへお客を連れていけば、今後、観光の目玉になる。観光は、その地域でないと味わえないことを味わいたいのが一番のニーズ。ぜひご協力いただき、多くの人々が連携をとりながら、新しく構築していくことが必要ではないか。

(事務局) 市のホームページでできるところから取り掛かって、観光宣伝してまいりたい。

(委員) 7事業が今年補助金が終わる。自己評価でも、なんとか継続したいとの評価が多いが、自助努力とかいろんな手法があると思うので、ぜひ、補助金がなくてももっと素晴らしくなったというようにやっていただきたいし考えていただきたい。

(箱山城・桜ロードの会) 課題がたくさん出ている。人が訪れるので、行政で市道の枯れ松の伐採や継続した市道の整備ができるか。また、事業を継続するに、ほかに活用できる補助制度があったら教えていただきたい。

(事務局) 枯れ松、市道の件は即答できないが、要望を承っている部署とも相談し、現場も見させていただき個別に相談させていただく。補助制度については、民間からのものも含めて調べておきたい。

(センター長) 市の部長会議で平成 22年度事業応募状況の説明があったときに、市長からわがまち魅力アップ応援事業は良い事業だという話があった。現在の制度では、2年で期限が切れ、同一事業は難しいという形になっている。事業期間の延長についての意見が丸子地域だけでなく、他地域でもこれから出てくると思う。確実にそうなる話しはここではできないが、これから検討をせざるを得ないと思っている。

(委員) 現状は事業のキックオフの支援をする制度になっているので、今後期間が延びた

としても、永久に市が援助することにはならないので、どこかの時点で、地域で継続してやっていける体制を作っていたらいいと思う。支援がなくなった段階で、どうやって維持管理をやっていくかを、ぜひ事業と一緒に考えていただきたい。そうでないと、桜を植えたところが、いつのまにか草だらけになっていたとか桜が枯れる状況になっていたということのないように取組みをお願いしたい。

西内っ娘育成支援活動の取組みは、定住化・小学校継続など大変重い課題を取組まれている。具体的な対応策を見出すことも難しいことを聞いたが、短期的にどうこうできる事業ではないと思うし、ぜひ具体的な方策を見出して取組んでいただきたい。

(下和子素浪人の会) 松くいに竹搾酢が効くと聞いたが教えていただきたい。松が枯れているのが、地域の魅力がなくなっていく感じがしてならない。空中散布に代わる対策を研究されている先生がいたら教えていただきたい。

子ども達が大人になり地域に戻ってやっていきたいという気持ちは、今我々がやっていることが子ども達の心に少し残ることが魅力につながる。先輩達が残したものを、地域に戻って継続してやっていこうという気持ちにつながると思う。打ち上げ花火のように終わってしまうのではなくて、こんなこともやったらどうかというアドバイスもいただければ、取組めるところから一つずつ取組めればと思っている。

(委員) 3月 12日に松くい対策協議会があり、丸子からは地区自治連の会長が出席している。竹搾酢については、プロジェクトチームで取組んでいる段階だということで、その資料は自治連会長が持っているのでご覧いただきたい。

(事務局) この事業がきっかけで、せっかく取組まれているので、これで終わりにならないように、次世代、40代、50代あるいは、子ども達が郷土を愛していけるように継続できるしくみづくりは、どこの団体も一番の課題で、一緒に考えていかなければいけない問題だと思う。

(委員) 自治会対象 5年を 10年とし、市民団体対象 2年を 4年とし、予算が足りないということなく計画的に予算を立ててやっていただきたい。

(丸子地域を活性化する会) 自分達ができる範囲で、補助金があったからみんなで頑張って事業をやってきた。丸子地域をなんとかしなきゃいけないと思っているわけで、2年の補助後は皆さん続けてよということではうまくいかないと思う。武石の花桃があれだけ有名になったのも、村長が一生懸命やったから。自治センターも長く我慢してやっていかなければ育っていかないと思う。

(センター長) 無尽蔵に予算をつけるのは難しい。継続している事業もあり、新規事業も予測して予算を作るが、実際に応募を受け付けたらオーバーしていた。その後の採択で補正予算も可能。

現在の制度は、立ち上がりを支援し、それ以降は自分達の負担でやってもらいたいという制度。汗は流してもらわないといけないが、お金の自己負担はなくても事業ができるようになっている。補助年数の問題はこれからの課題。

(委員) 長い継続の中で制度ができたから申請するなら良いが、たまたま補助制度ができたから会を立ち上げて2年で100万円を使い切る団体もある。そういう団体は補助がなくなったら立ち往生してしまうという面もある。宝くじ補助金事業、県の元気づくり支援金事業ほか、資金援助してくれる団体がある。継続して実績を作ることで、申請に対して補助となるので、2年で補助が終わってもぜひ、続けてやっていただきたい。頓挫しないで実績を作り、丸子地域が素晴らしい地域になるように一緒に頑張っていきたい。

(ほたるの里の会) 蛍は私達の子どもの頃はどこにでも舞っていた。依田川水系はよいが、千曲川水系に行くと、右岸と左岸の源氏蛍の種類が違うらしい。あかりの間隔が違う。幼虫を持ってくると雑種になってしまう。どのようにして幼虫を集めたらよいかが一番の悩み。良い知恵を教えてください。

(事務局) 情報をお持ちの方お寄せいただきたい。

(委員) やる気のある皆さんが集まっているので、お互いが協力しあえば、イベントを共有し予算を削ったり、自分達の自立も生まれたりすることもあるので、協力していきたい。先ほどもマップを作っていたかという話しもあったが、地域コーディネーターの担当ができないか。継続性もそうだが、お互いの事業をどうつなげていったら良いか、世代を超えてどうつなげていったらよいかなど、専門的なことも必要になってくる分野。自分達も自分達の事業をやっていくのが精一杯なので、コーディネートする部分には意識が回らない。ここでできた成果をどうつなげていくか、地域コーディネーターをご検討いただきたい。

それから世代間につなげていくということで、植樹やらいろんなイベント、資源があるが、地元自治会の子育て世代に少し声を掛けて、そこで子育てのイベントをやっていただくとか、30代、40代の世代に責任を委ね、小さな芽を育てる意識を持ってやっていただいたらどうか。声をかければ、案外動ける子育て世代もいるのではないかと。

(事務局) 来年度以降も、一緒に知恵を出し合いながらよりよい丸子地域にしていきたい。

丸子地域協議会

- 1 開会(センター長)
- 2 会長あいさつ(副会長)

平成21年度丸子地域協議会は本日の第13回で終了となります。また第二期目の委員の任期もこれで終了となります。2年間真摯に取り組んでいただき大変感謝しております。本日の実績報告会も、昨年と比較しても実りある報告会になったと思います。皆さん熱心に活動しているということがわかりました。

3 調査研究事項

- (1) 全体会議 カネボウ食堂棟活用検討専門部会活動報告(村松部会長)

資料2により説明。

・ 専門部会設置に関する若干の背景 旧食堂棟をどう活用していくか、施設改善に地域予算を活用することによって地域の活性化につなげていくことが主題。

・ 活動経過 平成 21 年 10 月から 2 月まで。

・ 利用希望アンケート結果報告 地域の各種団体にアンケート。回答の 30 団体のうち、利用希望あり 16 団体。定期利用希望 4 団体。利用するにあたり、水道、厨房設備、電気、照明、トイレ、冷暖房等の設置について、また、ステージの床の改修、防犯対策、駐車スペースの確保についての要望が寄せられている。アンケートでは同時に、産業文化遺産、景観の保全も求めたが、大多数の団体から保存すべきとの回答があった。今回のアンケートは、潜在的に利用希望を持っているすべての団体を網羅したとは言えないが、およその傾向は把握できた。使い方として、イベント的な活用と定期的な活用の 2 通りの利用希望がある。イベント的に施設を一体で使う方法と、定期的に使う間仕切りとか床張りも必要になる使い方も出てくる。相容れない使い方が将来考えられるので、将来的には両立するような設備をどう考えていくか課題になる。同時に防犯対策、駐車スペースも含めて将来的には考えていく必要がある。

・ 今後の活動

数ヶ月という活動期間であったので、入口段階で終わることとなった。次期協議会へぜひ引き継いで取組んでいただきたい。次期協議会で取組んでいただく内容としては、もう少し地域のいろいろな団体の利用希望とか具体的な使い方についての詳細な情報を集める必要がある。その使い方に対応する設備の改修計画に取組んでいる必要がある。それから、将来的な設備の管理体制、維持管理、費用、賃料等をどうしていくかについても必要になってくる。

われわれにとっては、地域の活性化に使われることは意義あることだろうと思うので、次期協議会へ申し送り、ぜひ積極的に取り組んでいただくようにしていただきたい。

(委員) 資料のアンケートの集約で、「ジオラマ」とあるが、「ジオラマ(模型電車)」と入れていただきたい。

(副会長) 専門部会の皆さん本会議の後残って部会を開催していただき大変お疲れ様でした。内容についてはご説明の通り、次期地域協議会で引き続き検討していただくよう申し送りしたい。

資料 2 旧カネボウ食堂棟活用検討専門部会活動報告

第三期地域協議会への引継ぎ事項について

・ 引継ぎ事項・反省等について、皆さんが感じている率直なご意見を聞かせていただきたい。わがまち魅力アップ応援事業に関するも出していただきたい。

(委員) 市長へ提出した「地域協議会のあり方についての意見書」についての報告をいただきたい。

(センター長) 2 月 25 日に会長とセンター長、係長 3 人で市長に手渡した。片桐会長からは、皆さんの議論を踏まえ意見書を提出するとともに補足的にご意見を申し上げた。市長から

は、こういう全市的な視野に立った意見書は初めてで、うれしく思っていますと感想があった。回答はすぐには難しいが、地域協議会の役割の強化策、地域全体の発展策、地域予算等についても、これから真摯に対応していかなければいけない。地域自治センターのあり方についても、地域予算を原資とする一定額以上のセンター長の決裁権は、市にとっては大きな課題。合併して5年目で、合併しなかったほうが良かったのではないかという意見もあり、市長、副市長は心配している。どうやっていけば解消されるかは市の中でも研究されている。

(副会長) 丸子地域協議会は自治会的な要望ということではなくまじめに取り組んでいる。開かれた地域自治となるように、今後の地域協議会にも期待したい。

(事務局) 別紙2「実績報告会についての意見記入用紙」、別紙3「地域協議会への引継ぎ事項・反省等の記入用紙」は本日事務局へ提出いただきたい。

資料：地域協議会のあり方についての意見書(写)

4 その他

- ・ 記念撮影
- ・ 自治センターだより第14号 校正のお願い。
- ・ 職員の人事異動 市長選挙がある場合、一般職は5月1日に異動。退職職員の補充は5月までない。

(センター長) 任期最後の地域協議会で皆様にお礼を申し上げます。皆様におかれましては、任期に長短はございますが、本日一つの区切りを迎えることになりました。合併から5年目に入り、3年間は揺籃期で4年目から成長発展期と位置づけて、いろいろな政策を展開しています。4市町村の対等合併から4年が経ち、地域内分権を大きな柱にすえています。この裏づけとして、地域協議会の果たす役割、期待は非常に大きいものでありました。具体的に何をどうやったら良いか、事務局にしてもなかなか難しい部分があったりして、確固たる考えや方針が持ちにくかったのが現実で、皆様におきましても暗中模索の部分があったと思っています。ただ丸子地域の施策の方向性については、時々的確な答申をいただき、それによって事業ができています。地域協議会のあり方という大きな見地からの意見書も市長に提出して、市長からもうれしい言葉もあったような状況です。改めて皆様に今期の活動に対し感謝を申し上げますとともに、今期の活動を次期に引き継いでまいります。至らぬ事務局ではあったかと思いますが皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

5 . 閉会